

人間市納税貯蓄組合長賞

教科書ってタダじゃない？

豊岡中学校 三年 新島 果奈

始業式、私達の手元に何気なく届く教科書を、あなたは「タダ」だと思っていませんか。たしかに無償給与のため、保護者の負担に直接的にはなりません。ですがその分、国の予算・国民の税金が使用されています。なぜ、教科書は個人の負担ではなく国民の税金が使用されているのでしょうか。その理由は義務教育にあります。日本国憲法第二十六条の通り、人権として全ての人間に義務教育を受ける権利があります。教科書は日本の義務教育の根幹を支えるもので、無償で教科書を受けとることができるのです。また、教科書には国民全体の次代を担う子供達への願いや、思いが込められています。つまり、無償給与とは未来を創る若者への投資なのです。

ここまで調べてみて、一つ気になったことがあります。義務教育の根幹を支える教科書は、税金が使用されていますが、教科書以外ではどのような面で義務教育の税が使用されているのでしょうか。まず、義務教育にかかる費用はどのくらいでしょうか。使われているお金は毎月約七万円だそうです。学校では机・椅子・黒板などの備品や電気や水道、校舎の維持管理費、職員の人件費など多くの費用が必要となります。その費用は、国と市町村で半分ずつといったように、負担の割合が決められています。一年間で小学校は約八十四万円、中学校では約九十六万円の税金が使用されているそうです。

全日制の公立高校でも約九十万円費用がかかります。小学校に入学してから高校を卒業する十二年間、一千万円以上の税金が使われているそうです。一千万円ってどのくらいでしょうか。なんと無人島を一つ買える値段だそうです。その中でも特に教科書は、教育を受ける上で必須のものとなります。また、教科書は義務教育が終了しても、個人へのプレゼントという形になります。私達の手元に一生残るのです。色々な知識は大人になっても重要、というメッセージだと思っています。みなさんは、教科書に隠されたメッセージをどう受けとりますか。

私は、教科書に込められた真意を知り、教科書は税を通して贈られた証・バトンと感じました。「タダ」と無償は全く別物で、決して無駄にして良いものではない、ということが分かりました。無償給与は義務教育の間のみで、中学三年生の私の場合今年で最後になります。「社会のバトン」ということを意識しなおし、最後の義務教育一年間「大人達からのプレゼント」を大切に使用していきたいと思っています。